

## 略歴書

翠川 三郎 (みどりかわ さぶろう)

東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授、工学博士

【専攻分野】地震防災工学、地震工学

### 【本会活動】

理事 (学術担当) : 2008 年 6 月 1 日～2010 年 5 月 31 日

監事 : 2011 年 6 月 1 日～2013 年 5 月 31 日



### 【略歴】

1980 年 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 博士課程修了

1980 年 日本学術振興会 奨励研究員

1981 年 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 助手

1988 年 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 助教授

1989 年～1990 年 チリカトリカ大学 工学部 客員教授

1995 年 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 教授

2016 年～現在 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授

### 【受賞】

日本建築学会賞 (論文) (2000)

横浜市 災害防止功労者 (2001)

文部科学大臣表彰 科学技術賞研究部門 (2007)

防災担当大臣表彰 防災功労者 (2012)

地域安全学会 技術賞 (2014)

日本地震工学会 論文賞 (2015)

### 【委員会活動 (直近 5 年間)】

文部科学省 地震調査研究推進本部 強震動評価部会 委員(1999 年 9 月～)

文部科学省 地震調査研究推進本部 地震動予測地図高度化WG 主査(2006 年 3 月～)

内閣府 中央防災会議 東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会 委員(2011 年 5 月～2011 年 9 月)

防災科学技術研究所 強震観測事業推進連絡会議 委員(2011 年 6 月～)

東京都 防災会議地震部会専門委員(2011 年 9 月～2013 年 6 月)

国土交通省 国土技術政策総合研究所 長周期地震動対策検討 WG 委員(2011 年 7 月～)

横浜市 地震被害想定専門委員会 委員長(2011 年 12 月～2012 年 10 月)

内閣府 中央防災会議 首都直下地震モデル検討会 委員(2012 年 4 月～)

気象庁 長周期地震動に関する情報のあり方検討会 座長(2011 年 11 月～2012 年 3 月)

地域安全学会 顧問(2014 年 2 月～)

神奈川県 地震防災戦略策定検討委員会 委員(2015 年 6 月～2016 年 3 月)

など

【著書および主要論文（代表的なもの 10 編以内）】

- ・ 翠川三郎(編)：都市震災マネジメント、朝倉書店、148pp.、2008.
- ・ 大町達夫・翠川三郎：ジオテクノート 地震動、地盤工学会、113pp.、1999.
- ・ J. Stewart, S. Midorikawa et al.: Implications of Mw 9.0 Tohoku-oki Japan earthquake for ground motion scaling with source, path, and site parameters, Earthquake Spectra, Vol.29, No.S1, pp.S1-S21, 2013.
- ・ 翠川三郎:東京での長周期地震動と高層建物への影響、第 37 回地盤震動シンポジウム講演集、pp.35-42、2009.
- ・ S. Midorikawa: Dense Strong-Motion Array in Yokohama, Japan and Its Use for Disaster Management, Proc. NATO Workshop on Future Direction of Instrumentation, pp.197-208, 2005.
- ・ 翠川三郎:全国を概観した地震動予測地図とその活用に向けて、建築防災 2004.12、pp.21-26、2004.
- ・ 司 宏俊・翠川三郎：断層タイプ及び地盤条件を考慮した最大加速度・最大速度の距離減衰式、日本建築学会構造系論文集、No.523、pp.63-70、1999.
- ・ 翠川三郎・松岡昌志：国土数値情報を用いた地震ハザードの総合的評価、物理探鉱、Vol.48、No.6、pp.519-529、1995.
- ・ 翠川三郎・福岡知久：気象庁震度階と地震動強さの物理量との関係、地震、第 41 巻、第 2 号、pp.223-233、1988.
- ・ 翠川三郎・小林啓美：地震断層を考慮した地震動スペクトルの推定、日本建築学会論文報告集、No.282、pp.71-81、1979.

【所信】

東日本大震災で生じた様々な課題に対する取り組みが進められているところに、さらに熊本地震という大きな災害に見舞われました。私自身も含め多くの方々が、わが国が地震国であることを改めて思い知らされたと思います。南海トラフの巨大地震や首都直下地震などの発生も懸念される状況において、地震工学に係わる幅広い研究分野の研究者や技術者の連携により発足した日本地震工学会の役割はますます大きなものとなっています。

地震防災対策には様々な取組が必要です。特にわが国のような成熟化した社会において、既存の複雑化した社会システムを高耐震化していくためには、ある特定の技術開発だけでなく、多面的な対策を地道に進めていくための社会的な理解も必要です。「継続は力なり」というように、防災対策の推進が単発的・短期的に終わらないよう社会を誘導していくことも日本地震工学会の使命のひとつであると感じています。

この他にも日本地震工学会が直面している課題は、研究活動の活性化、研究者(特に若手)の支援、国際化への対応、会員へのサービス強化など、たくさんあります。そのため、目黒会長を中心とした現在の体制において、研究委員会の更新、スピーディーな論文集の発行、魅力ある年次大会の開催、国際シンポジウムの開催、世界地震工学会議の誘致、会誌・ニューズレターによる情報発信、公開講座の開催などの施策が積極的に進められています。会長に選出された場合には、これらの活動を継続的に推進することに加えて、地震災害や地震防災技術に関する情報や知識を社会にわかりやすく発信する方策も強化して、会員のみなさんのご協力を得ながら、災害に強い社会づくりに少しでも貢献できるよう尽力したいと考えています。